2017年 1月 30日 (月)
【産経新聞】

悲劇は繰り返させない

南三陸で被災地語り部フォーラム

東北被災地語り部フォーラムで甚句を披露する北村弘子さん（左）と藤原マチ子さん　＝29日午後、南三陸町

〈宮城〉東日本大震災の伝承活動について話し合う「東北被災地語り部フォーラム」が29日、南三陸町のホテルで開かれた。岩手、宮城両県の語り部を中心に、震災を後世に伝え、甚大な被害と悲劇を繰り返さないための取り組みについて議論し、約300人が聞き入った。

パネルディスカッションでは、児童・教職員計84人が死亡、行方不明になった石巻市立大川小の遺族ら3組が登壇。大川小で6年の次女、みずほさん＝当時(12)＝を失った佐藤敏郎さん(53)は、事実と向き合うにはつらさが伴い「目を背けたくなる状況がある」と複雑な心境を吐露した。

その上で「誰も話さなければ、あいまいなまま忘れられる。それでは生きようとした子供たち、先生の命が無駄になる」と伝える意義を強調した。

震災についての展示を行う気仙沼市のリアス・アーク美術館の学芸員、山内宏泰さん(45)は「未曽有の災害」という言葉が使われる違和感に言及し「津波は人類史上初めて来たわけではない。経験に学ばなければ、大災害が繰り返されてしまう」と指摘した。

日本民謡の一種の甚句を通して震災の教訓を伝える岩手県釜石市の北村弘子さん(64)と藤原マチ子さん(64)は、自作の詞を見事な節回しで披露。想定にとらわれず、すぐに避難する大切さを訴えた。

東北4県の放射線量
29日午前9時